

(様式1) 実践事例

学校名	伊達市立梁川小学校	校長名	岡崎 一也		
住所	伊達市梁川町字北本町21番地1	児童生徒数	404	学級数	18
TEL	024-577-1124	ホームページアドレス	<a href="http://www3.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=0710094">http://www3.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=0710094</a>		

主体的に関わりながら課題解決のできる子どもの育成  
～少人数教育のよさを生かして～

### 1 少人数指導の方針

次の点について、少人数学級のよさを生かし、個別に指導を徹底させるようにする。

- (1) 基本的な生活習慣を身に付けさせ、学習に向かう生活リズムを整えさせる。
- (2) 特に国語・算数において、基礎基本の確かな定着・習熟を目指す。
- (3) 関わり合って課題解決する学習スタイルを定着させる。
- (4) 不登校・不登校傾向児童の改善を図る。
- (5) いじめ件数ゼロを実現する。

### 2 実践の概要

#### (1) 個別指導の充実

- 毎週の「すこやか調べ」を通し、生活リズムの乱れ等が感じられた場合は、すぐに個別指導や教育相談を行っている。また、保護者にも改善に向けた協力を依頼し、連携を図っている。
- 個々の理解や習熟の程度に合わせた適応問題を準備して取りませたり、授業の終わりに書かせる学習の振り返りやまとめに丁寧に目を通し、次時の学習の際の個別指導に生かしたり、次の時間までに補充したりしている。

#### (2) 交流の場の設定

ペア学習やグループ学習といった単なる学習形態を整えるというのではなく、関わり合いの目的や視点を明確にして交流させている。そこでは、子どもの内面に起こっている「関わり」（例えば、自分の考えの自覚や確認、他者の考えの理解、共通点と相違点等）が児童の受け止め方次第で異なってくる。よって、教師の前時までの見取りや本時における見取りに基づいた「どう関わらせるか」「何を関わらせるか」という教師の働きかけが大事である。まさに、少人数のよさを生かして授業を構成していくことが求められている。

#### <授業の実際>



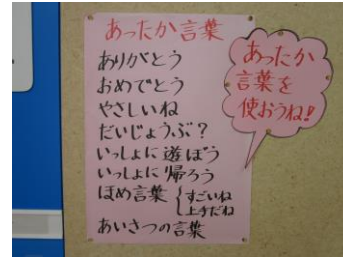
#### 【1年国語科】

「りっちゃんは、どんなことを考えたのでしょうか。」という問いの答えをノートにまとめ、ペアで自分と同じか違うかという視点で交流させた。同じなら番号を赤丸で囲む。違う考えが分かったら、ノートに書き加えるという活動だった。

子どもたちは、「どうしてそう分かったの?」「理由は?」などという言葉で問い返ししながら、友だちの考えを聞いて違う考えを理解しようとしていた。

### (3) 望ましい集団づくり

「みんなの約束」として「自分がされていやなことは人にしない、言わない」を全校生の合い言葉に、生徒指導に取り組んでいる。学校全体でも、学級でも常に児童に意識させる工夫をしてきた。具体的な関わり方について、「あったか言葉」といったスキル指導にも取り組んでいる。



### 3 実践の成果と課題

- 一人一人に丁寧に関わることができ、基本的な生活習慣や学習の基礎基本の定着に成果をあげてきている。特に支援を必要とする子どもたちに対してもきめ細かな対応ができ、保護者の理解にもつながっている。
- 現職のテーマとも関連させながら、関わり合って課題を解決できる子どもの育成に向け、全学年で取り組んでいる。関わらせ方等についての研修も深まり、一人一人の思考の深まりにつながっている。
- 学級生活が仮設校舎での生活の頃と比べると格段に落ち着き、子ども同士の温かいふれ合いの姿が多く見られるようになった。人間関係による不登校やいじめの件数は前期「0件」である。
- 生活リズムに関しては、さらに、家庭との連携を強化していきたい。
- 交流学习を通しての児童の変容をしっかりと見取らないと、その後の学習に交流の成果が生きてこないなので、さらに交流のさせ方や視点のもたせ方、児童の見取り方等の研修を積み重ねていきたい。